

- 鑄鉄の酸素その定量と組織におよぼす影響。
 的場幸雄, 外...71~82
 製鋼々滓の酸化力に関する研究 (I) 珪酸または石炭
 飽和の酸化鉄鋼滓の αFeO 測定. 三本木貢治, 外
 ...83~92
東北大学研究所報告 9 (1957) 4
 Photometric Determination of Tin in Iron and
 Steel III. H. Goto et alius. ...253~261
鉄道技術研究資料 14 (1957) 6
 強じん鑄鉄製造法 (I) 佐藤忠雄, 外...270~278
 鋼と砂型材の境界層の顕微鏡的観察. 佐藤忠雄, 外...
 279~285
名古屋工業技術試験所報告 6 (1957) 9
 鍛造における材料の流れの研究 (6) 粟野泰吉, 外...
 464~472
— 会社刊行誌 —
日本鋼管技報 No.10 (1957)
 焼結工場の改造 (I) 舟田四郎, 外...125~136
 鶴見製鉄所第2高炉の改修ならびに其後の操業.
 池上平治, 外...137~147
 軟鋼の塑性曲線およびその応用. 高瀬恭二...167~178
 平面試料を用いた分光分析による鋼中の微量元素
 (Ni, Cr, Sn, As, Al) の同時定量. 佐藤武彦,
 外...179~187
富士製鉄技報 Vol. 6 (1957) 3
 酸素製鉄製鋼法. 森永孝三...225~254
 断続弧光法の鉄鋼分析への応用. 森永武生, 外...
 307~314
住友金属 Vol. 9 (1957) 2
 低温用鋼管について. 大森仁平, 外...98~117
 Fe-Ni-Al 系および Fe-Ni-Al-Co 系合金の X線廻
 折による 2, 3 の実験結果について. 中鉢光雄, 外
 ...118~123
日立評論 39 (1957) 7
 黒心可鍛鑄鉄製管継手の焼鈍管理. 小山代三郎.
— 39 (1957) 8
 鑄鉄の黒鉛組織におよぼすガスの影響 (II) Fe-C(飽
 和) 系の組織におよぼす水素の影響 (2)
 添野 浩...935~940
 炭素鋼の球状化处理について. 吹野晋作, 外...953~956

“八幡時代の私の自慢” 黒田 泰造*

あいつがと思われられるかもしれぬが私でも自慢がある。それは鉄の工場で化工方面はどうも下積になる。例えば技術者の洋行でも数回私への話を部下に譲つて鉄方面の人より比率が余り劣らぬようにすべくつとめたが、とかく化工方面は二番目になり易い。しかし仕事にはとまれ人なのであるから私は毎年の技術者採用人員もなるべく多く貰い、そしてそれ以外にも遇発的の機会ある毎に年々努めて多く採用して貰つた。年取つた先輩が「部下を余り入れぬ人もあるが君は若いのに中々人を入れるね」といつて感心だと賞めて下さつたこともある。その頃自分の将来とか利益など考えなかつたようだ。そしてたゞ仕事の発展を楽しみにしていた。(父がどうして私を苦勞して学校を出し、ここに養子にやつたのかとも思つた事もあつた。)

ある年技術者採用に際し部下より多く欲しい多く欲しいといわれ、それを上役に相談して少し減じて呈出したのを消極的の人より、自分の方は2年も続いて要求しないのに「君は山を張る」など大勢の前で罵じられたこともあつた。むかし化工部面は追々東田、前田、洞岡、戸畑とかなり広くもなつたし、続いて国内はおろか満鮮の製鉄所まで当時採用された人々によつて成績を挙げて貰つたのは自慢したくなる。

当時ある技師が私に製鉄事業が化工部門を余り拓げるのは日本人の經營者的の能力からして不可能でないかなどいわれ、いな、日本人を軽蔑しなさんな、などいつた事もあつた。U. S. Steel の社長 Farrel 氏は化学出身である。(私は染料、アルミニウムまたは合成硫酸には八幡自身では進む事は断り、高炉セメント完成をお願いした)。

また工場内で遺利なからしむべく、けちともいわれべき仕事を数々したが、それを君は仕事がないのかなどいわれた事もある。例えばタールバラス、ボロより油およびボロの回収、木材防腐、ボタの再洗および煉炭製造、浮游洗炭(日本での初め) 鉍滓バラス、鉍滓モルタル等。なお当時高炉セメントもあまり用いずに基礎より鉍滓煉瓦および鉍滓製品で工場等(本事務所も)を建てた。鉍滓煉瓦に女を1500人も働いて貰つたが、これは大して黒字でもなかつたが、時の中村、白仁両長官からは八幡には女の仕事がないからとか、八幡を火災から防げ、会計検査院の方はよく説明してやるから安く売れなどと奨励して頂いた。

この頃コークスの化成部門および高炉セメントは別会社となり、耐火煉瓦も分離して益々隆盛となりつゝある。そして化工部門引いては製鉄事業が(せめて今の倍、すなわち英独並に年2000万tまで)一層活躍して貰いたい。とまれ無能不徳だつた私が今や老ぼれて尾羽打からしているが、許されるならば私の自慢は多くの優秀なる人々に楽しく働いて貰い、そしてその人達の働きが相当国の為になつたであろうと思う事である。

* 元、製鉄所(官営当時)化工部長、日本製鉄株式会社取締役